

ターボハムログの使い方(超初心者向け)

【はじめに】

ターボハムログ(以下ハムログ)は、交信記録簿(ログ)の電子版ですが、日本で多くのアマチュア局に使われ、使い勝手の良いソフトで、日々バージョンアップされています。

まず、インターネットから「ターボハムログ」ソフトや「道の駅 Get's」をダウンロードして下さい。

ハムログ圧縮ファイル(Thw524a.exe)をダブルクリックし、インストールします。

==> [例] Cドライブに「Hamlog」というファイルを作ると良いと思います。

解凍すると注意書きや変更点などが表示されます。自局のコールサインを入力すれば使用可能です。

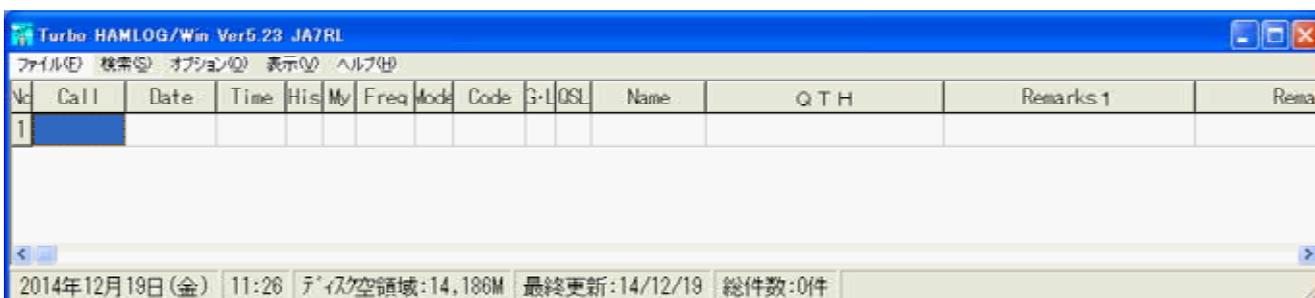
始めに大凡の環境設定をしましょう。(なお、表示は設定等で異なっています。)

1台のパソコンで家族や複数のコールサインで使う事ができますが、後で説明します。

データ入力、好きずきですが交信数が多い方は新しいデータから、少ない方は古い方から入れると良いと思います。

【データ試し入力】

ハムログのアイコンをクリックすると下の様なハムログのデータ画面がでます。



【ハムログデータ画面】

「Enter」キーを押すと、その上に下の様なデータ入力画面がでます。



【データ入力画面】

交信データを入力しましょう。

1. [Call]の欄にコールサインを入力し、[Enter] キーを押します。

一番上の「青色帯」に、入力したコールサインが表示され、その下に交信回数(QSL: 受領)が表示されます。

過去にQSOしていれば、過去のQSOデータが表示されます。何れかのデータを取り込みたい時は、そのデータを「右クリック」して「取り込み条件」を決め、データを取り込みます。

とりあえず、わからない所は空白にして「Enter」で最後までデータを入れて下さい。「ハムログデータ画面」にデータが1つ入力されます。後で修正するか削除して下さい。

【環境設定】

データ入力で不要な所を変更します。(必要に応じて修正して下さい)

オプション 環境設定を選びます。(設定1～設定6まで行います。随時設定変更が可能です)

設定1

タイトル[T]に自分のコールサインを入れます

次の項目の にチェックを入れます。

前回の交信内容から氏名をコピーする。
最終データの日付時間をコピーする。
(既に入力データがある場合に名前と日時を取込みます)

3つの使い分けができます。
"レ"が灰色:分を書き換える時。
"レ"が黒色:時から書き換える時。
チェックなし:現在時刻が入力されます。
QSL欄の初期値とする「J」
(JARLビューロー経由で送る場合)
599形式指定
(CWやSSTV等の時に書き込む)
[Tab]キーでクリア
(入力画面でTabキーを押すと入力中のデータが消去されます)

設定2

登録したデータのWkd/Cfmのチェックあり
(JCC/JCG等のQSO状況を表示します)
他は必要と思う所だけにチェックを入れて下さい。
データ登録時確認あり
(チェック外した方が早くセーブできます)

設定3

緯度経度はわかっていたら入れます。
「G・L計算」をクリックすると自局のG・Lが表示されます。
方向と距離を表示する
方向の矢印を表示する
緯度経度が入っていれば、入力画面に赤の で相手局の方向と距離が表示される。
コールサイン入力時はスペースキーを押すと
"/" (移動局の"/"入力に便利)
過去のQSOからQTHを取得
(既に入力データがある場合に固定の住所を取込みます)

設定4

時計はパソコンの時計をきちっと合わせておきます。
JCC/Gでテキスト表示
モード表示は好きな表示形式を選びます。
その他必要な処にチェックを入れたり外したりして下さい。

設定5

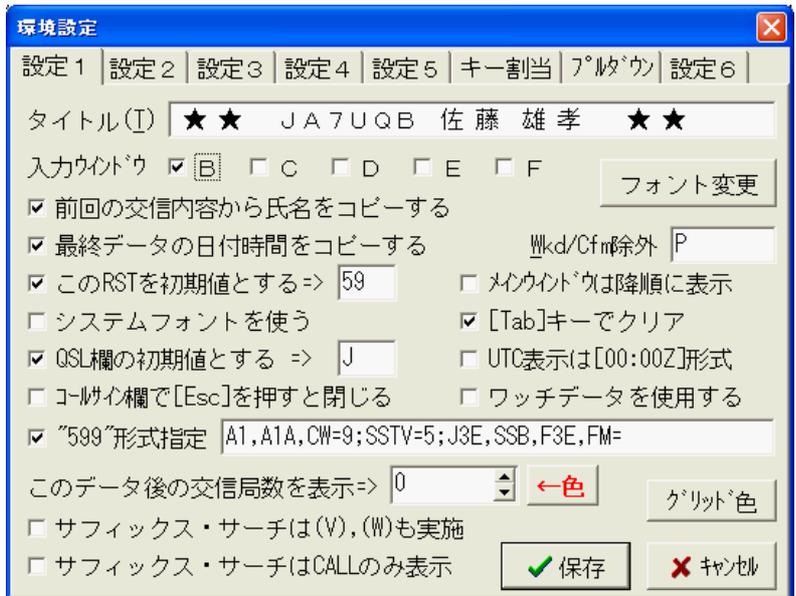
パソコンに周波数やモードのデータを送ったりします。専用接続ケーブルが必要です。(ヘルプ参照)

キー割当

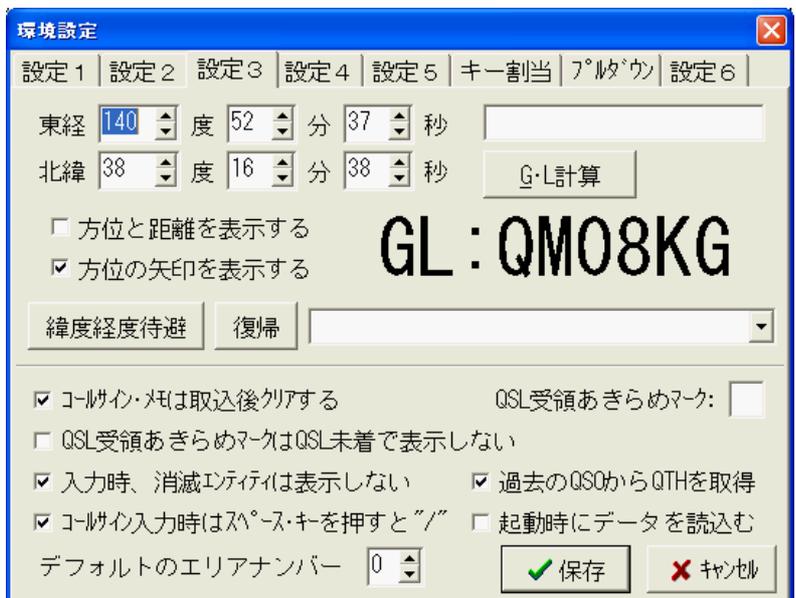
「Freq」には周波数を「Mode」にはモードを入れます。各項目でパソコンの矢印()を押せば表示します。検索やデータ入力時に便利です。必要に応じて設定して下さい
(例)コールサイン部分文字列 をクリックし、[Ctrl]+[F]を押すと上の空欄にCtrl+Fが入力されますので、横のOKをクリックします。(必要に応じてこの操作を繰り返して下さい)
=>データ入力画面で実行します。(例) [Ctrl]+[F]を押すと、コールサイン部分文字列の画面が表示されます。

ブルダウン

ここに文字等を入れて置くと入力画面の各項目でパソコンの矢印()を押して、文字を選択すると入力できます。
(例)[Remarks]に良く入力する文字「ニューイヤーパーティ」、「コンテスト」等を入れます。



【環境設定 - 設定1の画面】



【環境設定 - 設定3の画面】

設定6

この設定はそのままにして[保存]をクリックします。(設定画面が自動的に閉じます)

【データ入力】(QSOデータを発信後に入れる設定です)

過去のデータから入力している場合、途中で新しいデータを入れても後で並べ替えが可能です。

<< 環境設定で「最終データの日付時間をコピーする」にチェックを入れます。>>

交信中に入力する場合と発信後に入力する場合で日付の入力方法が若干違います。

・相手局が移動している場合コールサインを入れ、スペースキーを押すと"/"が挿入されます。

「データ試し入力」と同様に、入力画面で[Call]をクリックし、コールサインを入れ、「enter」を押すと[Date]と[Time]の蘭に日付と時間が自動的に入ります。

==>初めてデータを入れる場合は現在の時刻、過去にデータがある場合はそのデータの時刻が入ります。

日付、時刻を修正します。

交信中に現在時刻を入力する場合は、[Time]の項目で()キーを押して現在時刻に変更します。

データを順に入れても良いですが、項目の所をクリックすれば飛んだり戻ったりしてデータを入力することができます。

修正したい所をクリックし修正します。

[His]に相手の信号強度、[My]に自分の信号強度に59(9)が入っています。修正したい所をクリックし修正します。

[Freq]でPC()を押して、周波数を決めてます(手で修正も可能)

[Mode]でPC()を押して、周波数を決めてます(手で修正も可能)

次回からはその周波数とモードが残ります。

[Code]はハムログの市郡区町村 No.を入れます。注1

〔例〕仙台市若林区の場合はF7を押して、[頭文字](わ)を入力すると、仙台市若林区が表示されますので、該当の所をダブルクリックするか、反転し[Enter]キーを押します。

[Code]の所に「060103」が、[QTH]の所に「仙台市若林区」が入力されます。

注1.[Code]をクリックし、F5~9迄の何れかのキーを押して、画面が変わってから、右側の市郡区町村タブ選択で変更が可能です。また、都道府県コード入力に「No.」を入力しても良いです。

この時、市区町村名が表示され、表から周波数毎の市区町村の交信状況がわかります。

C: QSLカード有、W: 交信済、空欄は未交信です。

[G.L]はグリットロケータを入れます。

(QSLカードが届かないとわかりませんのでカードが届いてから入力して下さい)

[QSL]はQSLカードの状況を入力します。(1文字目は「J」が入っています) 目的に応じて修正します。注2

[His Name]交信相手の名前を入れます。(空白でもOKです。印刷設定によりQSLカードに名前が入ります) 注3

[Remarks1]と[Remarks2]メモ用に使います。初めは空欄でもOKです。(後日、訂正で追加入力もできます)

(私はRemarks1を相手の情報、Remarks2は自分の備考に使っています。)

ここで()キーを押すと環境設定で「プルダウン」に入れた文字が入力できます。よく使う文字(NYP、コンテスト等)をダブルクリックすると挿入されます。

他にQSLカードに印刷する色々使い方がありますが、今回は省略します。

[Clear]はこの入力画面のデータを消去します。

環境設定で「Tab」キーでも消去できます。

[Save]はどの項目にカーソルがあってもデータを保存します。また[Remarks2]にカーソルがある場合は「Enter」で保存し、次のデータ入力が可能です。

【入力環境設定】

入力しない項目からチェックを外しますと、チェックのない項目は無視し飛び越して行きます、入力するのに楽で、早いです。

入力画面でチェックを外した項目でも、その項目を

注1

ファンクションキーで市(F)郡(F6)区(F7)町(F8)村(F9)を選び、自治体名の頭文字を入れ[Enter]を押します。自治体名の一覧が表示されますので、ダブルクリックするか[Enter]を押します。

または、その下のコード番号に No.を入れれば自治体名がでます。(県 No.だけでもOK)

注2

1文字目は環境設定で(J)が入ります。

自由に変更可能です。

(QSLカード印刷で説明)

2文字目は印刷/発行状況

3文字目はQSLカード受領した時"*"を[INS]キーで入力します。

注3

ハムログユーザー登録しますと名前、住所、備考等が入力されます。

【入力環境設定の画面】

クリックすれば、戻って入力や修正ができます。

「IME自動起動」にチェックを入れれば、日本語入力モードになります。

「Remarks1保存」と「Remarks2保存」にチェックを入れれば、データを一時的に消去しても文字が残ります。

ニューイヤーパーティ、コンテスト、自局が移動した時に便利です。

(但し、過去のデータすべてを読み込んだ時はそのデータが優先されて取込まれますので注意)

【G・Lを取込む】にチェックを入れれば、過去のデータからグリッドロケータが読み込まれます。

【検索】

用途に応じた色々な検索方法があります。(検索から目的に応じた検索方法を選んで下さい)

QSLカードが届いた時に「受領マーク」を付けたい時などに使います。

「コールサイン部分文字列」はコールサインのプリフィックスやサフィックス等で検索します。

QSL蘭にQSLカード取得マークを付ける。

QSLカードが届いた時に、QSL蘭の3文字目にマークを付けます。

【検索】 「コールサインで検索」が「コールサイン部分文字列」で検索します。

データが複数表示された時は日付・時間が合ったデータをダブルクリックします。

修正画面が現れますので[Ins]キーを押し、右上の「赤×」で終了します。

==>他も修正した時は「Save」をクリックし、「データを修正してよろしいですか?」「はい」をクリックして下さい。

そのデータのQSL蘭の3文字目に「*」が入ります。

(注2) QSL 蘭について。

(A) QSLカードをQSLマネージャーに送る場合、QSL 蘭の1文字目は「J」が表示されています。この「J」を「M」に変更し、[Remarks]の1か2にQSLマネージャーのコールサイン前に「@」を付けて書込みます。

ハムログの印刷で、JARL転送枠には「マネージャーのコールサイン」が、To Radioに「相手のコールサイン」が印刷されます。(JARL転送枠の左上に「Via」を書きましょう)

(B) 同様に、[例]「D」はダイレクト、「N」はノーQSL等に変更します。印刷時の仕分け用に区別すると良いです。

2文字目は、印刷終了時に「QSLマーク文字」で指定した文字が入力されます。

3文字目は、QSLカードが届いた時にQSL蘭に「*」マークを入れます。QSLカードを得たことがわかります。

【QSLカード作成】

ハムログは、メーカー製QSLカードに印刷する場合の修正やQSLカードの自作が簡単に自由にできるようになっています。

QSLカードを自局用書き換えます。

【オプション】 【QSLカード印刷】を選びます。

【定義ファイル】をクリックし、[Hamlog]の印刷ファイル

(* * *.QSL)を呼び出し、[イメージ]で確認します。

その名前のファイルでいたい良ければ、[編集]をクリックし、右側の「注釈」を参考にして、QRA、QTH、JCC/G、G・L等を自局用書き換えます。

「名前を付けて保存」して下さい。

メーカー製QSLカードはプリンタにより印刷位置が

若干ズレますので試し刷りし微調整して下さい。

(試し刷りした用紙をQSLカードの上に重ね透かして見る)

[例] #Print 140, 424, "IDY" ==>初めの数字140はX位置で、次の数字424はYです(単位:0.1mm)。

"IDY"は「年」です。初めは10の位を+か-に30~40位変化させ、編集 印刷イメージで何処が動いたかチェックし、調整します。この作業を繰り返して、良ければハガキ大のメモ用紙に印刷し、自分のQSLカードに合わせて、各項目がキチンと入っているか確認します。

なお、QSLカードに複数データ(FiveQSO.QSL)を印字する場合、「印刷イメージ」では最終データだけ複数表示します。

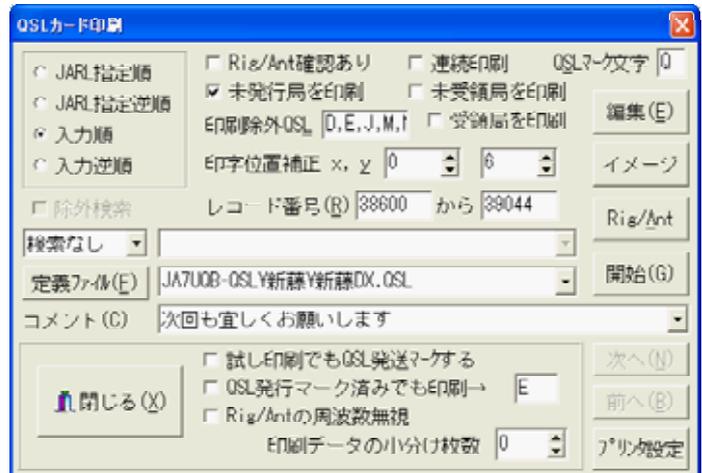
【QSLカード印刷設定】

初めは、連続印刷避けた方が良いと思います。

【QSLマーク文字】は、入力画面の「QSL蘭」の2文字目に入る印刷終了のマークです。(自分で決めて下さい。)

【印刷除外QSL】は、QSL蘭の1文字目のカードを除外して印刷します。

カンマ「,」で区切り複数の文字が入れます。なお、印刷したい時はその文字を削除します。



【QSLカード印刷の画面】

[Rig/Ant]は、リグやアンテナが複数ある時に選んで印刷します。

(印刷の前に[Rig/Ant]をクリックし、データを入れて下さい)

左側の「JARL指定順」、「JARL指定逆順」、「入力順」、「入力逆順」は印刷する順番です。

==>QSLカードにデータを複数印字する場合は、必ず「JARL指定順」か「JARL指定逆順」を選んで下さい。

[印刷位置補正]は、印刷全体が上下左右にズレた場合に修正します。

[レコード番号]は、印刷を「開始する番号」と「終了する番号」を入れます。

【QSLカード印刷】

[開始]をクリックします。

下部に印刷するデータが表示されます。右横が「中断」「前へ」「次へ」「印刷」に変わりますので「印刷」をクリックすると印刷を開始します。 ==>印刷位置全体が上下左右にズレた場合は、x、y補正值を入れ修正します。

【QSLデータの保守管理】

★QSLデータバックアップ

QSLデータは設定で自動でバックアップしますが、パソコンが壊れてしまえばデータが無くなります。USBメモリや外付けハードディスク等に時々保存しておきましょう。

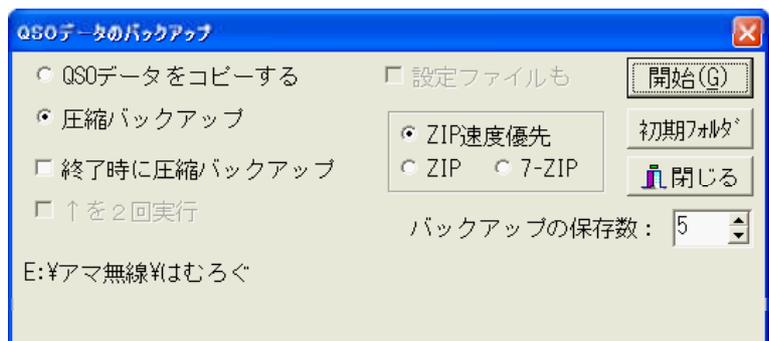
[ファイル] →[QSOデータのバックアップ]選びます。

○圧縮バックアップをクリックします。

次に、[初期フォルダ] →リマールバブルデスクを選び、(左下に保存場所が表示される)

[開始]をクリックすると、バックアップファイルができます。

[例]Bk141031_1715_000123.zip (→バックアップを取った年、月、日、時刻、データ数で、圧縮ファイルです)



【バックアップの画面】

★QSOデータの修正

入力したQSOデータを訂正したい場合は、そのデータをダブルクリックするか、検索から訂正したいQSOデータを探し出します。ダブルクリックすると、「修正の画面」に変わりますので、修正したい項目をクリックし修正します。

修正が終わりましたら[Save]をクリックし、[データを修正してよろしいですか?] OKをクリックします。

(続けて前や後ろのデータも修正したい時は、右中央の▲▼をクリックしてデータが選べます)

==>「入力画面」と「修正画面」を区別するために「入力環境設定」で「ウインドウ色」を変えると解りやすいです。

★QSOデータの並替

入力したQSOデータは日付時刻順に並べ替えられます。(必ずデータのバックアップを取ってから行って下さい)

[オプション] →[データの保守] →[日付時間順にソート]を選び、並べ替えする番号の最初と最後を入れ、OKをクリックすると「・・・念のためバックアップは取ってありますか?」「OK」をクリックすると開始します。

★QSOデータの入力ミスチェック

QSLカード印刷の前や入力したQSOデータのミスを時々チェックしましょう。

[オプション] →[データの保守] →[QSOデータチェッカー]を選択します。

調べたい項目にチェックを入れます。

(チェック項目は幾つ入れても良いです)

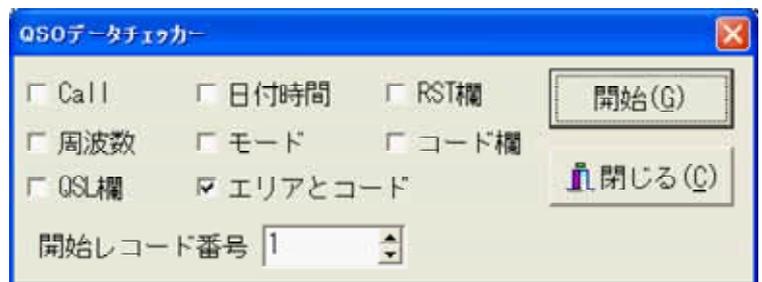
ハムログ項目にミスがあれば、そのデータ番号に入力ミスが表示されます。

→QSO番号をメモし、その項目を修正します。

[検索] →[レコード番号で検索]を使うと便利です。

(正しい場合もあります)[例] RST 蘭で34や5と入れた場合もミスと表示される事があります。

修正した場合はもう一度チェックして下さい。



【QSOデータチェッカーの画面】

【交信状況の表示】

交信状況を周波数毎、市郡区町村DX毎に集計表示ができます。

(データを沢山入力した時、QSLカードを受け取った時に実行して下さい。)

[表示] →[Wkd/Cmf マスターデータの表示] で「再集計」をクリックしますと一覧表が出ます。

Wkd/Cmf は、Wkd : 交信済み、Cmf : QSL カード受領です。前の数字がWkdで/ 次の数字が Cmf です。
 ==>Codeの市区町村DXにも反映しますので、時々行って下さい。

【ハムログを複数で使う】

[オプション] →[データの保守] →[別コールサイン用にインストール] を選びます。
 同様にインストールし、別なコールサインを入れれば使用可能です。
 デスクトップのアイコンの名前を変更しておきましょう。

【最後に】

インターネットに接続するともっと便利な使い方ができますが、ターボハムログや道の駅 Get's を単独で使っても有意義なソフトです。

入力には慣れて下さい。QSL カードの作成はいろいろ試して下さい。
 アワード申請やコンテストログ作成等に便利なハムログ用無料ソフトがあります。ダウンロードして使して下さい。
 ハムログユーザーに登録しますと、1st-QSO でも QRA、QTH、メモ等が得られます。
 不明の所はヘルプを参照するか友達に聞いて下さい。

道の駅Get's

【道の駅ソフトについて】

ハムログは、道の駅、名勝アワードやSSTV等にリンクしていて、そのデータが取り込めます。
 「道の駅 Get's」では道の駅の所在地[Code]と道の駅の名称がハムログに取り込み便利です。

★「道の駅 Get's」を[Hamlog] ソフトのある所にインストールします。そのパス([例]C:¥Hamlog¥Michino.exe)をメモします。

ハムログの環境設定「設定6」で左側の「ホームページ名」に「道の駅Get's」を記入します。右側の「アドレス(URL)」にメモしたパスと「道の駅」の実行ファイル名を記入します。

[例] C :¥Hamlog¥Michino.exe

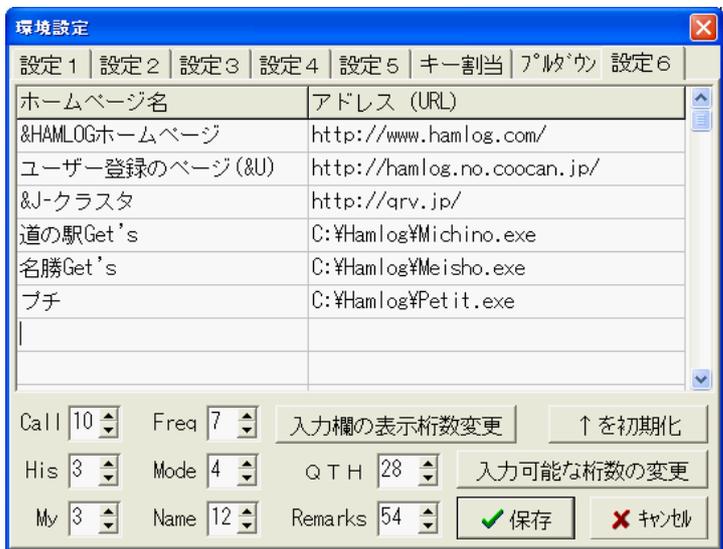
ハムログのホームページやユーザー登録は既に入力されていて、インターネットが使える環境になって入れは、そこをクリックするとそのホームページに行きます。他のソフトも必要に応じて入力して下さい。

[保存]をクリックして、環境設定を終了します。

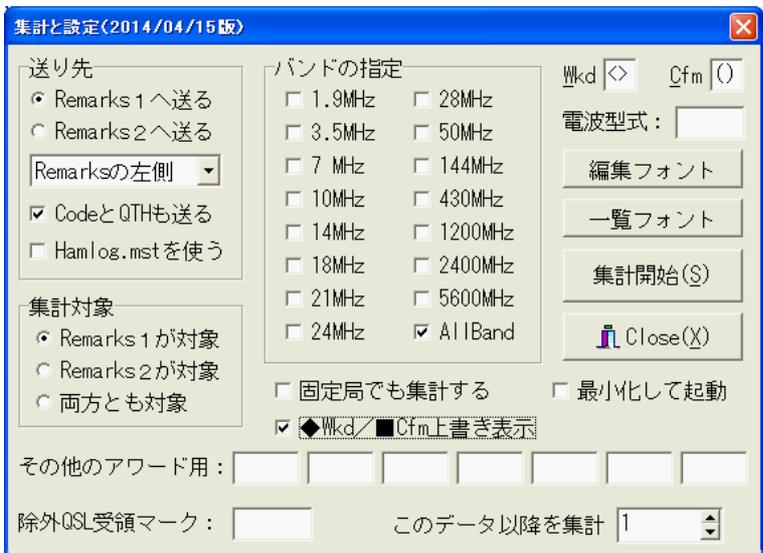
★道の駅の環境設定をします。

ハムログの「ヘルプ」の「道の駅Get't」をクリックします。自動的に道の駅のソフトが起動します。(道の駅の画面が出ない場合は、パスが違ってしますので、再度チェックして下さい)
 道の駅の「集計と設定」で送り先と「Remarks」のどちら側に送るか決めます。
 集計対象も決めて下さい。
 [◆Wkd/■Cfm上書き表示]にチェックを入れ、終了します。

★QSOデータに道の駅データを挿入します。移動局が、○○道の駅移動と言われた時に、ハムログの「ヘルプ」の「道の駅」をクリックします。自動的に「道の駅」のソフトが起動されます。



【環境設定－設定6の画面】



【道の駅の設定画面】

[例] 宮城県の09番、林林館、登米市の場合

[エリア別 Jump] →エリア →県 →道の駅の番号をクリックすると黄色に反転します。

【道の駅のデータ画面】

[ハムログに送る] をクリックするとハムログに送られます。

[Code]:06012、[QTH]:登米市

[Remarks]:□ 06 宮城県-09,林林館が挿入されます。

【ハムログに道の駅のデータが送られた時の画面】

ハムログ入力画面に戻すのは、「下のタスクバー」にある「ハムログ」のアイコンをクリックします。

同様に道の駅に戻りたい時は、道の駅のアイコンをクリックして下さい。

(道の駅のソフトは、ハムログを終了する時に終了して下さい)

[参考] どれくらい道の駅と交信したかのチェックは、[集計と設定] →[集計開始] をクリックすれば Wkd/Cfm 数がわかります。また道の駅のリストにもマークが付きます。 □:未交信 ◆:交信済み ■: QSL カード取得済み

なお、[Remarks]は文字数制限がありますので「道の駅の名称」は削除しても集計には影響がないようです。

[例] [Remarks]は□ 06 宮城県-09 だけでも OK です。

ハムログは、ユーザーから使用方法について意見を頂きながら更新します。また新しい市・区・郡・町が発生した時や廃止された郡・町・村が発生した時に変更されます。

道の駅Get'sも新しい道の駅や廃止された道の駅があった場合にバージョンアップされます。

「ターボハムログ」や「道の駅Get's」ソフトは時々バージョンアップされますのでダウンロードして使って下さい。